

## 化学物質の内分泌かく乱作用に関するホームページについて

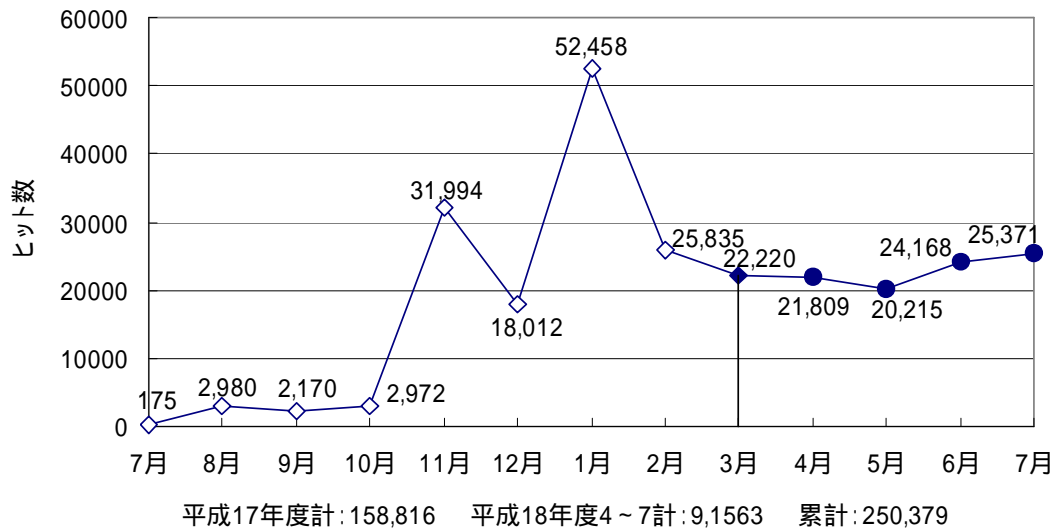
### 1. 平成17年度のホームページの運用・更新実績報告

#### (1) ホームページのアクセス集計

アクセス元のIPアドレス、アクセス元のドメイン名、アクセスされた日付と時刻、アクセスされたファイル名、リンク元のページのURL、訪問者のWebブラウザ名やOS名、処理にかかった時間、受信バイト数、送信バイト数、サービス状態コードなどの情報を毎日収集して、アクセス数の解析を行った。結果は以下のとおり。

#### アクセス集計

化学物質の内分泌かく乱作用に関するホームページアクセス数月別推移  
(平成17年7月～平成18年7月)



#### (2) ホームページ更新・追加の状況について

ホームページのコンテンツにそって、追加更新を行った。主な内容は以下のとおり。

#### コラム・エッセイ

8月 化学物質問題市民研究会 事務局長 安間 節子  
「環境省の環境ホルモン政策に異議あり」

化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会委員  
(株)三井化学 環境安全役員付部長 岩本 公宏  
「安全と安心 内分泌かく乱作用問題について」

環境ホルモン学会 会長 森田 昌敏

「環境ホルモンの諸問題」

ExTEND2005 基盤的研究企画評価検討会委員

(社)日本化学工業協会 常務理事 小倉 正敏

「最近の化学物質の内分泌かく乱作用問題(“環境ホルモン問題”)報道について」

環境省の取組

7月 ExTEND2005 「身近な生き物を観察してみよう！」

PowerPoint ファイル/ PDF ファイルを追加

### (3) ホームページ上のアンケート・意見募集の状況(平成18年4月~7月)

<アンケート集計結果 有効回答数: 7件>

性別:

男性	女性
6	1

年齢:

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
3	1	2	1	0	0	0

職業:

研究者			会社員		自営業		学生	主婦	アルバイト	無職	その他
化学関連分野	自然野生生物関連分野	その他の分野	化学関連分野	その他	化学関連分野	その他					
1	0	2	1	0	0	0	2	0	0	1	0

地域:

北海道東北	首都圏	関東甲信越	東海北陸	関西	中国四国	九州沖縄
1	1	2	0	1	1	1

このホームページで知りたかったのはどんなことですか?(複数選択可):

人健康への影響	野生動物・生態系への影響	植物エストロジェン	下水処理水	リスクコミュニケーション	メス化	精子減少	低用量問題	その他
5	2	0	0	0	1	1	1	1

このホームページのどの項目が分かりやすかったですか?(複数選択可):

簡単に知りたい	コラム・エッセイ	対談・インタビュー	詳しく知りたい	国内での取組	国際的な取組	国際シンポジウム情報	資料集
2	1	0	4	2	0	0	0

このホームページのどの項目が分かりにくかったですか？（複数選択可）:

簡単に知りたい	コラム・エッセイ	対談・インタビュー	詳しく知りたい	国内での取組	国際的な取組	国際シンポジウム情報	資料集
0	0	1	2	0	1	0	3

このホームページのどの項目が勉強になった、もしくは役に立ちましたか？（複数選択可）:

簡単に知りたい	コラム・エッセイ	対談・インタビュー	詳しく知りたい	国内での取組	国際的な取組	国際シンポジウム情報	資料集
4	2	2	3	2	2	1	2

全般的評価：

面白かった・興味が持てた	見やすかった・わかりやすかった	勉強になった・役に立った	また機会があれば読みたい	もう少し工夫してほしい
0	1	5	0	1

< 意見募集に寄せられた意見（抜粋） >

60代 男性 会社員(化学関連分野) 関東/甲信越 人健康への影響 野生動物・生態系への影響に関心 EXTEND2005 で取り上げられた 65 種のうち 36 種は人には問題となる悪影響はないと判断されました。一方発泡スチロール容器からは有害な可塑剤（添加剤）が流出してくるといふ都の健康安全研究センターの発表もあります。環境ホルモンは、幻想だったのか、あるいは現時点でどの化学物質の含量を測定すべきなのかについて市民に役立つ有益な情報の提供が欲しいです。
--

## 2. 今年度の予定について

### (1) 項目見直しについて

ホームページによる情報提供の特性を活かしながら、項目を見直していく必要がある。  
タイトルバーの見直し案は以下のとおり。

コラム・対談

内分泌かく乱作用とは何か。

内分泌かく乱作用に関する取組

- ・環境省の取組
- |   |                      |
|---|----------------------|
| { | ExTEND2005 について      |
|   | 野生生物に係る取組（研究成果を含む）   |
|   | 基礎的な研究に係る取組（研究成果を含む） |
|   | 作用影響評価に係る取組（研究成果を含む） |
|   | リスクコミュニケーションに係る取組    |

・国内での取組

・国際的な取組

国際シンポジウム情報

資料集・リンク

アンケート・意見募集

著作権・プライバシーポリシー・お問い合わせ

### (2) 各項目内での掲載方針・予定について

コラム・対談について

平成17年度第2回検討会およびメーリングリストでの承認により、コラムへ執筆依頼中。

- 村松秀氏（NHK 科学・環境番組部 専任ディレクター）
- 西川洋三氏（元三菱化学株）環境安全部 部長）
- 青山博昭氏（残留農薬研究所 毒性部副部長兼生殖毒性研究室長）
- 堤 治氏（東京大学医学部附属病院産科婦人科 教授）
- 千石正一氏（自然環境研究センター 主幹）
- 飯野滋氏（NHK「ためしてガッテン」ディレクター）

内分泌かく乱作用とは何か

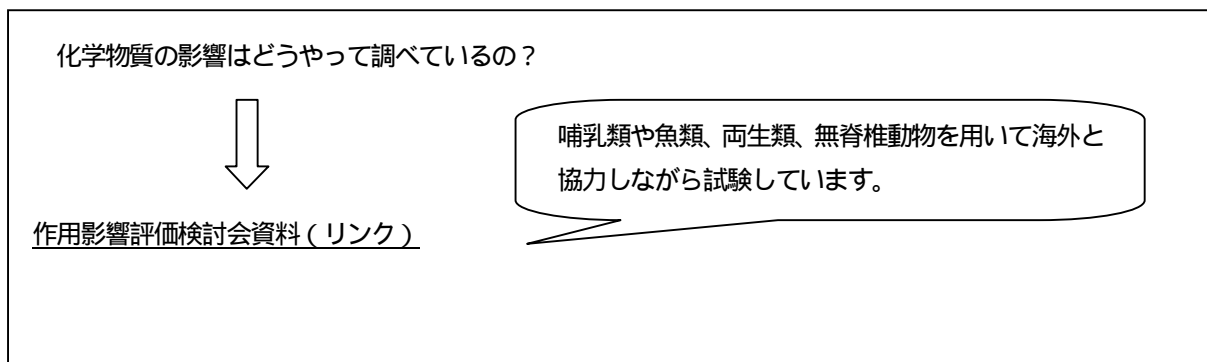
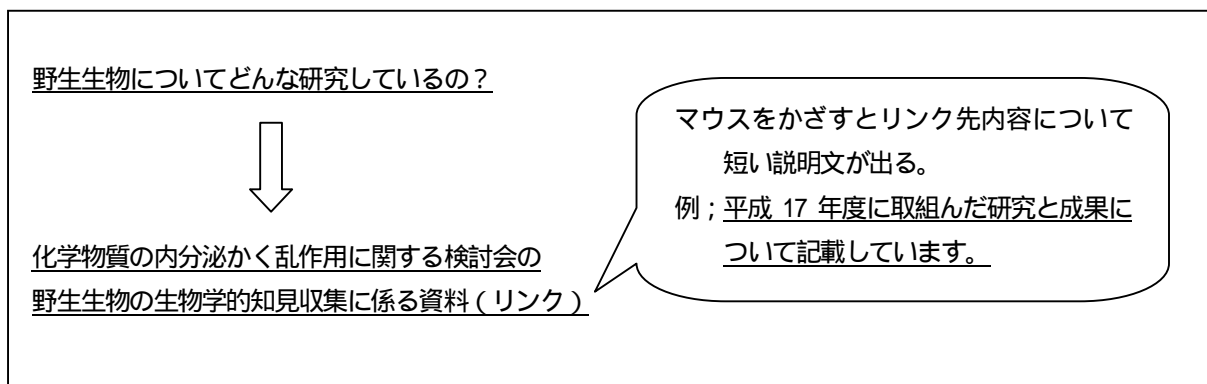
- ・魚類・両生類・無脊椎動物の内分泌系；教科書的記述へリンクが可能か検討する。
- ・生態系への影響、人健康影響に関する記載は別項目で対応する。

内分泌かく乱作用に関する取組

- ・環境省の取組については、1行程度の分かり易い説明を記載し、環境省当該 URL へ細かくリンクを張る。
- ・国際的な取組については、1行程度の分かり易い説明を記載し、化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会資料のうち、国際協力関連事業に関するものを掲載する。

- ・環境省の取組・国内での取組・国際的な取組について、知りたい内容から情報の検索が可能なよう、項目を列挙した一覧表を示す。

## イメージ案



### 国際シンポジウム情報

- ・第 8 回アンケート掲載予定。第 8 回シンポジウム終了以降の情報を追加する。
- ・第 9 回シンポジウムについて情報を掲載する。

### 資料集、リンク

- ・環境省の検討会資料以外のデータを掲載する。
- ・本ホームページから、関連学会や国際機関等へリンクを張る。

### (3) その他

- ・最新 3 項目程度はトップページへも掲載し、新着情報であることをアイコンで表示する。
- ・第二階層のデザインを調整し統一性を持たせる。
- ・タイトルバーのアイコンからページ内容説明が出てくる機能を追加する。
- ・現在の掲載内容は、ホームページの改編に従い、移動・変更する。

- ・外部から本ホームページへのリンクを奨励する。なお、次のルールに従って運営する。

リンクは、営利・非営利・イントラネットを問わず基本的に自由とする。

リンクの際には、E I C ネットの活動目的と情報提供の趣旨に合った目的での掲載とする。

リンク先はトップページ (<http://endocrine.eic.or.jp/>) とする。

(その他のページは、予告なくURLを変更する場合があります。)

以下のようなリンクは認めないこととする。

1. Official ED (Endocrine Disruption) Website への誹謗中傷、信用を失う恐れのある内容を含むサイトからのリンク
2. 公序良俗に反するサイトからのリンク
3. フレームを使用したリンク
4. 「Official ED (Endocrine Disruption) Website」であることが不明となるリンク